

# のぶゆき 真田信之

真田信之（はじめ信幸、1566～1658 年）は、永禄 9 年（1566）、  
真田昌幸まさゆきの長男に生まれました。天正 13 年（1585）上田城（長野県上田市）で真田氏と徳川軍と戦った第一次上田合戦では、  
沼田の地侍じざむらいたちに沼田城の守りを固めるよう指示しています。  
同 18 年の小田原征伐では、父とともに豊臣方として松井田城攻略などで功をあげ、改めて沼田領を与えられ徳川家康の  
与力大名となりました。その間、本多忠勝ただかつ娘で家康養女こまつの小松姫ひめを妻としています。

慶長 5 年（1600）関ヶ原の戦いでは東軍に加わり、父昌幸・弟信繁の籠る上田城を攻めています。戦後、その功で西軍についた父と弟の助命がゆるされ、翌年上田領を合わせ 9 万 5 千石の大名となっています。慶長 19 年（1614）の大坂の陣には、信之は体調不良を理由に参戦せず、息子の信吉のぶよし・信政のぶまさ兄弟を派遣しました。元和 2 年（1616）沼田領を長男信吉に譲って上田城に移り、同 8 年松代（長野市）へ転封となります。

明暦元年（1656）2 男信政に松代藩の家督を譲り隠居しますが、万治元年（1658）信政が死去し、2 歳の幸道ゆきみち（信政 6 男）が家督を継ぎます。これに沼田城主信利のぶとし（信吉の 2 男）が反対し騒動が起きると、93 歳の信之は幸道の後見人となってこれを鎮めた後に死去しました。この時、幕命で信利の領地は沼田藩として独立しました。

# のぶしげ 真田信繁

真田信繁（1567?～1615 年）は、真田昌幸<sup>まさゆき</sup>（1547～1611）の2男に生まれました。「真田幸村」の名前の方が江戸時代に知れ渡っていましたが、軍記物・講談以外には見当たりません。

信繁の前半生は、父昌幸の動向に翻弄されました。昌幸は、天正3年（1575）長篠の戦で兄が討死したことで家督を継ぎ、武田勝頼の命で吾妻郡・利根郡に進出しました。天正10年（1582）の武田氏滅亡後、昌幸は織田信長、上杉景勝、徳川家康と次々に主を替え「表裏比興（ひょうりひきょう）の者」と呼ばれますが、天正15年（1587）豊臣秀吉に臣従し上洛することで大名として自立しました。その間、息子弁丸<sup>べんまる</sup>（信繁）も、滝川一益や上杉景勝のもとに人質として送られ、昌幸とともに上洛しそのまま人質となったと考えられています。

その後元服した信繁は、秀吉の馬廻衆に取り立てられ知行地も与えられ、豊臣家臣大谷吉継<sup>よしつぐ</sup>の娘を正室に迎えました。関ヶ原の戦いで西軍に属し、父とともに信州上田城で徳川秀忠軍を阻んだため、戦後父子とも紀伊国九度山（和歌山県）に流されます。しかし慶長19年（1614）豊臣方の要請を受け九度山を脱出し大坂城に入ります。大坂冬の陣では大坂城外に出城「真田丸」を築き攻め寄せる徳川方を苦しめました。大坂夏の陣では、凄まじい勢いで徳川家康本陣まで攻め寄せたものの、最後は力尽き討ち死にしたとされています。